

レビュー項目 (事業名)	オンライン技術を活用した手話の普及促進 (手話普及促進事業)				部(局)	福祉部				
					所管課	ユニバーサル推進課				
					担当班	社会参加支援班				
					連絡先	078-362-4379				
開始年度	平成25年度	終了年度	—		関連計画等	ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例、障害者等による情報の取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例、第2期ひょうご障害者福祉計画、第7期兵庫県障害福祉実施計画				
事業区分	☒ 国補助事業 ☐ 県単独事業									
実施方法	☐ 直執行 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ その他()					実施主体等	兵庫県聴覚障害者協会			
事業目的	本県では、平成30年4月、障害の有無や性別、年齢等に関わりなく、県民一人ひとりがその個性や才能を発揮して、いきいきと活躍できる社会を実現するため、「ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例」および「障害者等による情報の取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例」を施行しているが、県内ではいまだ手話に対する理解が浸透しているとは言えない状況である。そこで、聴覚障害者に対する県民の理解を深め、手話を広く普及することを目的に、各種講座を開催する。									
事業概要	対象を細かく分類し、対象に適した各種手話講座を実施 1 手話を広く県民に普及 ①若者を対象とした手話講座、②県民向け手話講座、③出前手話講座(施設、企業等)、④普及啓発イベント(R5～) 2 聴覚障害者と接する機会のある専門職の手話技術・理解向上 ⑤看護職向け手話講座、⑥手話通訳者レベルアップ講座、⑦手話講師スキルアップ講座、⑧新カリキュラム対応講師養成講座(R7～) 3 聴覚障害者本人の手話習得支援 ⑨聴覚障害児向け手話講座(ひよこ)									
業務フロー	県(事業委託)⇒ 兵庫県聴覚障害者協会									
R4レビュー時の外部委員会意見	・手話と歌フェスなどのイベント等を組み合わせた事業の実施や、「手話の日」の設定や、定例記者会見の際など、あいさつへ手話を取り入れるなど、手話への関心が高める取組を検討すべき。 ・手話習得時間の見える化をしてはどうか。 ・手話を覚えることによるメリットをわかりやすく示すことで、習いたい人も増えるのでは。 ・初心者にはリアルタイム研修とし、ある程度慣れた人にはオンデマンドで研修することを検討すべき。									
改善結果 改善状況 取組過程	・「手話言語の国際デー」に合わせ、県内の市町と連携し、ブルーライトアップを実施しているほか、イベントを開催し、高校生の手話劇やミニ手話講座等を実施するなど、県民の手話に対する関心が高める取組を実施している。 ・手話のメリット(ろう者とのコミュニケーション)を紹介し手話講座への参加意欲を高める動画を配信している。 ・手話習得に取り組み易くするため、手話習得時間の目安をHPに掲載しレベルごとに習得時間数を可視化した。 ・受講者の増加と、研修の効率的・効果的な実施を目指し、動画配信と対面による研修を併用(事業所等の介護職向け研修)。なお、病院局の看護職向けの研修については、R5は動画配信で実施したが聴覚障害者への理解促進を深めるため、R6年度からろう者の講師との対面研修に切り替えた。									
事業に要するコスト	区 分		4年度決算額		5年度決算額		6年度当初予算額		7年度当初予算額	
	事業費①		22,734 千円		16,883 千円		16,883 千円		17,652 千円	
	経費内訳	報酬・賃金	0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
		委託料	22,734 千円		16,883 千円		16,883 千円		17,652 千円	
		補助金・交付金	0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
		貸付金	0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
		その他	0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(11,367千円)		(8,441千円)		(8,441千円)		(8,826千円)	
		(特定)	(0千円)		(0千円)		(0千円)		(0千円)	
		(起債)	(0千円)		(0千円)		(0千円)		(0千円)	
		(一般財源)	(11,367千円)		(8,442千円)		(8,442千円)		(8,826千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		22,734 千円		16,883 千円		16,883 千円		17,652 千円	
	執行率((①/②)×100)		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
	人件費③(a+b+c)		従事人員	0.2人	従事人員	0.2人	従事人員	0.2人	従事人員	0.2人
			1,651 千円		1,650 千円		1,744 千円		1,799 千円	
	職員給与費 a		1,427 千円		1,431 千円		1,520 千円		1,581 千円	
	賞与引当金繰入額 b		117 千円		119 千円		117 千円		119 千円	
退職手当引当金繰入額 c		108 千円		100 千円		108 千円		100 千円		
総コスト(①+③)		24,385 千円		18,533 千円		18,627 千円		19,451 千円		

レビューシート（令和４年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式３

	指標名	区 分	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 目標	最終目標 【年度】
評価	成果指標(アウトカム指標①)	目 標	391	401	340	350	360人
		実績（見込）	318	321	(328)	(350)	【R8年度】
		（単位当たりコスト）	(77 千円)	(58 千円)	(57 千円)	(53 千円)	
		達成率（見込）	81.3%	80.0%	(96.5%)	(100.0%)	
	成果指標(アウトカム指標②)	目 標	33,411	41,051	48,051	55,051	62,051
		実績（見込）	32,598	37,722	(43,606)	(55,051)	【R8年度】
		（単位当たりコスト）	(1 千円)	(0 千円)	(0 千円)	(0 千円)	
		達成率（見込）	97.6%	91.9%	(90.7%)	(100.0%)	
	成果指標(アウトカム指標③)	目 標					
		実績（見込）					
		（単位当たりコスト）	－	－	－	－	
		達成率（見込）	－	－	－	－	
指標	活動指標(アウトプット指標①)	目 標	7,640	7,640	7,000	7,000	7,000
		実績（見込）	6,827	5,124	(5,884)	(7,000)	【R8年度】
		（単位当たりコスト）	(4 千円)	(4 千円)	(3 千円)	(3 千円)	
		達成率（見込）	89.4%	67.1%	(84.1%)	(100.0%)	
	活動指標(アウトプット指標②)	目 標					
		実績（見込）					
		（単位当たりコスト）	－	－	－	－	
		達成率（見込）	－	－	－	－	
	活動指標(アウトプット指標③)	目 標					
		実績（見込）					
		（単位当たりコスト）	－	－	－	－	
		達成率（見込）	－	－	－	－	
目標	終期設定	有（ ）	（無）				
	改善基準	－					
自己評価	評価の視点		目標に対する達成状況（総合的評価）				
	○有効性(評価指標に対する実績) ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など		・県民のニーズを踏まえ、手話講座の効果的な実施を目的に、受講対象を細かく分類し、各種講座を設定して事業を実施した ・手話という専門性の高い分野であるため、民間での事業実施は難しい。 ・遠方者や時間に制約のある者(看護師等)の需要を踏まえ、オンラインと対面の講座を選択できるようし、参加者増へとつながった。		B：ほぼ満足のいく実施状況 ・目標には届いていないものの、オンラインの活用によりこれまで参加できなかった人にも手話講座を受講してもらうことができた。 ・当事者団体や、受講者からは、聴覚障害者への理解促進のためにはろう者の講師と対面で直接やりとりができる講座実施方法が望ましいという声がある ・手話という実技実習であるため、双方向で表情やしぐさが確認ができることが望ましく、オンライン、特にオンデマンドへの移行は難しいため、ニーズに応じて対面とオンラインも併用しながら引き続き講座を実施。 ・手話の普及啓発については、動画配信やイベント実施により広く一般の方に周知することができるため、引き続き取組を進める。		
	○効率性(最小のコストで最大の効果) ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など		・一部、動画配信による研修を試み、業務改善を行ったが、ろう者への理解や実技実習の必要性から、完全なオンライン実施は相応しくない。 ・聴覚障害者への理解促進を目的にした普及啓発の要素を含むため、受益者負担を求めるのは困難。 ・国庫補助を活用している				
	課題・今後の方向性 ☒ 改善 ☐ 他事業と統合 ☐ その他						
評価	説明（より聴覚障害者や手話に対する理解を広げる手法を検討し、啓発、広報に務める。）						
外部委員意見	○レビュー意見を反映し、高校生の手話劇やミニ手話講座等を実施するなど、県民の手話に対する関心を高める取組が実施できていることは評価に値する。これにより、若年層の手話に対する理解と関心が向上し、将来的な手話普及の基盤が強化されている。 ○動画配信と対面による研修を併用することで、受講者の多様なニーズに対応できている点は非常に効果的である。特に、ろう者とのコミュニケーションのメリットを紹介する動画の配信は、手話講座への参加意欲を高める重要な手段となっている。 ○今後とも継続して、動画配信やイベント実施により広く一般の方へ普及啓発活動を実施されたい。これにより、手話に対する理解と関心がさらに広がり、手話の普及が一層進むことが期待される。 ○手話習得時間の目安をHPに掲載し、レベルごとに習得時間数を可視化したことは、受講者にとって非常に有益である。これにより、受講者は自身の進捗を把握しやすくなり、学習意欲の向上につながる。 ○手話と歌フェスなどのイベントを組み合わせた事業の実施や、定例記者会見の際のあいさつに手話を取り入れるなど、手話への関心を高めるための多様な取組を検討すべきである。これにより、手話の普及がさらに促進されることが期待される。 ○手話劇、ミニ講座、動画配信、HPでの目安時間掲示など定量的に示せる情報のさらなる活用も今後に期待される。						